

## 第13回リウマチ膠原病診療連携の会の開催報告

11月14日(金)20時から当院5階5A会議室の現地参加とZoomによるWEB参加のハイブリッドで開催しました。今回もドクターは現地参加およびWEB参加で、また看護師・薬剤師のみなさまもWEBでたくさんのご参加をいただきありがとうございました。

今回も約10分程度の薬剤情報提供に引き続いて、30分程度話題提供をさせていただき、引き続いてお持ち込みいただいた相談症例1例、また、ご紹介いただきました患者さん1例について症例検討を行い、そして最後に相談事項について資料とともにご説明させていただきました。

話題提供は、『血管炎症候群～不明熱の先に隠れている症候群～』として、発熱性疾患の鑑別には挙げられるものの多くの疾患が含まれ、同じ症候群内で紛らわしい症状、臓器障害を呈する血管炎症候群について、典型的な疾患の説明や鑑別の考え方を説明させていただきました。

症例検討1例目では、腫れの日立たない両膝関節痛が約1ヶ月間続いた後、腫脹・熱感が出現。血液検査でRF,ACPA高値が判明した60歳代女性の症例を検討しました。関節リウマチは初発の罹患関節としては、手指、手関節、足趾関節など小関節からの発症が多いのですが、早期関節リウマチ患者さんの罹患関節を調べた総説では、発症半年の早期RA患者さんの約60%で、膝関節炎を発症していると報告されています。その中では、膝関節初発の患者群も一定数ある一方、触診では関節液貯留が初期には目立たないこともよく経験されます。変形性膝関節症と思っても単純レントゲンでOA所見に乏しい患者さんでは、関節リウマチを含めた炎症性疾患の可能性も考慮し、血液検査(CRP、RF、ACPA)などを測ってもよいかもしれないのご意見もいただきました。

症例検討2例目では、70歳代の関節リウマチ患者さんで、ブシラミン(BUC)による治療開始後2ヶ月で呼吸状態が悪化し、当院へご紹介。胸部CT、気管支鏡などで薬剤性肺炎と診断した症例を検討いたしました。抗リウマチ薬による薬剤性肺炎と言えば、“メトトレキサート関連肺炎(MTX肺炎)”がよく知られていますが、“ブシラミン肺炎(BUC肺炎)”も散見されます。BUC肺炎についての典型的な症状、検査所見、総説論文の紹介を紹介するとともに今回の症例との対比を行いました。

最後に、相談事項では、B型肝炎ウイルス感染と関節リウマチについての現在のガイドライン上の診療の進め方を確認しました。免疫抑制前にHBs抗原とともにHBs抗体、HBc抗体を測定し、HBs抗原が陰性でもいずれかの抗体が陽性であれば、定期的な核酸定量検査を行う必要があります。一定の数値以上の陽性結果が出た場合は、肝臓専門医へ紹介し、抗ウイルス薬投与開始の検討、肝癌のスクリーニング検査の実施などを行う必要があります。De novo肝炎の発症リスクは低いものの、例えプレドニン5mg/日以下のような少量グルココルチコイド治療であっても上記スクリーニング検査の対象になりますので、注意が必要であること、多くの施設ではHBV核酸定量検査は外注検査であり、患者さん受診日から1週間後などに結果が報告されることから、陽性例が見落とされるリスクがあり注意が必要なことなどを確認しました。

第14回リウマチ膠原病診療連携の会は、12月12日(金)20時から開催予定です。話題提供としては、『関節リウマチの周辺疾患①』として、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群、ベーチェット病(Behçet病)について説明させていただく予定です。みなさまのご参加をお待ちしております。